





## 工事報告

本日茲に八幡橋橋梁架替工事の竣工式を挙行するに当たり、工事の概要を報

告致します。

旧橋は一般地方道「阿

仁前田停車場阿仁前田線

の阿仁川に架設された橋

長九十四メートル、巾員三メートル

十の木造土橋でありまし

て、昭和二十年三月架替

以来数度に亘る災害によ

り流矢その都度復旧工事

をなし又再三に亘る上部

工の補修工事を実施して

まいりましたが、年と共に

下部工は勿論諸材の腐

朽甚だしく、又戦後重量

貨物或は大型自動車の発

達により木橋として維持

困難となつたため、県と

しまして、国庫補助を得

まして全面的に永久橋

に架替ることにしたの

であります。

本橋架替計画につきまし

ては森吉町阿仁前田驛前

地区の都市計画及河川の

状況等を考慮し構造や型

式はもとより線形並に美

觀上より真重に比較設計

を策定し種々検討を加え

まして旧橋より下流約九

十六米巾員六メートル上部工

では活荷重合成鋼鉄桁四連

であります。下部工は井筒基礎、

コンクリート橋脚三基と

なつて居り取付道路は左

岸五十八メートル右岸百九十四

メートル合計二百五十二メートル

工したのであります。

次に事業費について申上

げますと、上部工一千七百

三千円、その他三百八十万

八十九頓セメント百

石と云う数量を要したの

であります。

昭和三十二年七月着工以

来下部工は秋田土建株式会社、上部工は汽車製造社、並に上杉組の並々な

株式会社、取付道路は上杉組御努力の賜であります

工事の竣工式を挙行するに当たり、工事の概要を報

告致します。

旧橋は一般地方道「阿

仁前田停車場阿仁前田線

の阿仁川に架設された橋

長九十四メートル、巾員三メートル

十の木造土橋でありまし

て、昭和二十年三月架替

以来数度に亘る災害によ

り流矢その都度復旧工事

をなし又再三に亘る上部

工の補修工事を実施して

まいりましたが、年と共に

下部工は勿論諸材の腐

朽甚だしく、又戦後重量

貨物或は大型自動車の発

達により木橋として維持

困難となつたため、県と

しまして、国庫補助を得

まして全面的に永久橋

に架替ることにしたの

であります。

本橋架替計画につきまし

ては森吉町阿仁前田驛前

地区の都市計画及河川の

状況等を考慮し構造や型

式はもとより線形並に美

觀上より真重に比較設計

を策定し種々検討を加え

まして旧橋より下流約九

十六米巾員六メートル上部工

では活荷重合成鋼鉄桁四連

であります。下部工は井筒基礎、

コンクリート橋脚三基と

なつて居り取付道路は左

岸五十八メートル右岸百九十四

メートル合計二百五十二メートル

工したのであります。

次に事業費について申上

げますと、上部工一千七百

三千円、その他三百八十万

八十九頓セメント百

石と云う数量を要したの

であります。

昭和三十二年七月着工以

來下部工は秋田土建株式会社、上部工は汽車製造社、並に上杉組の並々な

株式会社、取付道路は上杉組御努力の賜であります

工事の竣工式を挙行するに当たり、工事の概要を報

告致します。

旧橋は一般地方道「阿

仁前田停車場阿仁前田線

の阿仁川に架設された橋

長九十四メートル、巾員三メートル

十の木造土橋でありまし

て、昭和二十年三月架替

以来数度に亘る災害によ

り流矢その都度復旧工事

をなし又再三に亘る上部

工の補修工事を実施して

まいりましたが、年と共に

下部工は勿論諸材の腐

朽甚だしく、又戦後重量

貨物或は大型自動車の発

達により木橋として維持

困難となつたため、県と

しまして、国庫補助を得

まして全面的に永久橋

に架替ることにしたの

であります。

本橋架替計画につきまし

ては森吉町阿仁前田驛前

地区の都市計画及河川の

状況等を考慮し構造や型

式はもとより線形並に美

觀上より真重に比較設計

を策定し種々検討を加え

まして旧橋より下流約九

十六メートル巾員六メートル上部工

では活荷重合成鋼鉄桁四連

であります。下部工は井筒基礎、

コンクリート橋脚三基と

なつて居り取付道路は左

岸五十八メートル右岸百九十四

メートル合計二百五十二メートル

工したのであります。

次に事業費について申上

げますと、上部工一千七百

三千円、その他三百八十万

八十九頓セメント百

石と云う数量を要したの

であります。

昭和三十二年七月着工以

來下部工は秋田土建株式会社、上部工は汽車製造社、並に上杉組の並々な

株式会社、取付道路は上杉組御努力の賜であります

工事の竣工式を挙行するに当たり、工事の概要を報

告致します。

旧橋は一般地方道「阿

仁前田停車場阿仁前田線

の阿仁川に架設された橋

長九十四メートル、巾員三メートル

十の木造土橋でありまし

て、昭和二十年三月架替

以来数度に亘る災害によ

り流矢その都度復旧工事

をなし又再三に亘る上部

工の補修工事を実施して

まいりましたが、年と共に

下部工は勿論諸材の腐

朽甚だしく、又戦後重量

貨物或は大型自動車の発

達により木橋として維持

困難となつたため、県と

しまして、国庫補助を得

まして全面的に永久橋

に架替ることにしたの

であります。

本橋架替計画につきまし

ては森吉町阿仁前田驛前

地区の都市計画及河川の

状況等を考慮し構造や型

式はもとより線形並に美

觀上より真重に比較設計

を策定し種々検討を加え

まして旧橋より下流約九

十六メートル巾員六メートル上部工

では活荷重合成鋼鉄桁四連

であります。下部工は井筒基礎、

コンクリート橋脚三基と

なつて居り取付道路は左

岸五十八メートル右岸百九十四

メートル合計二百五十二メートル

工したのであります。

次に事業費について申上

げますと、上部工一千七百

三千円、その他三百八十万

八十九頓セメント百

石と云う数量を要したの

であります。

昭和三十二年七月着工以

來下部工は秋田土建株式会社、上部工は汽車製造社、並に上杉組の並々な

株式会社、取付道路は上杉組御努力の賜であります

工事の竣工式を挙行するに当たり、工事の概要を報

告致します。

旧橋は一般地方道「阿

仁前田停車場阿仁前田線

の阿仁川に架設された橋

長九十四メートル、巾員三メートル

十の木造土橋でありまし

て、昭和二十年三月架替

以来数度に亘る災害によ

り流矢その都度復旧工事

をなし又再三に亘る上部

工の補修工事を実施して

まいりましたが、年と共に

下部工は勿論諸材の腐